

# 学校運営協議会委員

令和5年度 多良木町立黒肥地小学校

4すごく評価できる 3まあまあ  
2あまり評価できない 1評価できない

	項目	回答結果から見える成果や課題集約(学校作成)	評価
心の教育	1 基本的な生活習慣の確立	児童同士及び児童と教師の触れあうが多く設定されていて相互の関わり合いが高まった。学校と家庭が協働しながら教育活動が実施できた。 日常的な道徳の授業は充実していた。更にゲストティーチャーの招聘や体験活動と結びつけた授業づくりも求められる。 児童が主体となって活動する場面が増えた1年になった。特に縦割り班活動は相互に学びがあった。 凡事徹底、是は是・非は非の徹底ができた。 いじめ防止や不登校の解消に向けた取組が組織的・継続的に実施できた。いじめが認められた事案は発生しなかった。学級に心の居場所がある。	4.0
	2 豊かな人権感覚を育成する指導方法等の工夫・改善		
	3 (特別の教科 道徳)における議論する道徳の充実		
	4 縦割り班活動の積極的な活用、集会活動の効果的な運営		
	5 積極的な生徒指導の推進		
健康・安全教育	6 体力向上を図る取組の推進	体育の授業の充実や外遊びの奨励ができた。 児童の健康観察、健康管理及び安全教育が適切に実施できた。環境整備も的確に実施された。 命を守る教育の充実が図られ、子どももそれを自覚している。基本的な生活習慣の指導や啓発ができた。	3.8
	7 交通ルールの遵守と登下校のルールの徹底		
	8 早寝早起き朝ご飯の推進と食育の充実		
生きる力の育成	9 「熊本の学び」の推進	子どもを主体とした授業づくりが概ねできた。 家庭学習の奨励ができ、基本的な習慣が身に付いてきたが、自ら計画を立てて学ぶまでは高まっていない。 「熊本の学び」の推進のための手立て(校内研修や定期アンケート)を行ったため、対話量の多い授業が多くなった。 外国語・外国語活動研究発表会では、子どもが生き生きと学ぶ様子を参観していただいた。 読書活動自体は、学校に居る時間帯で十分対応できているが、生活(日常)化までは至っていない。	3.8
	10 外国語活動と教科との連携を図った目標の提示とコミュニケーション能力の素地・基礎の育成		
	11 自主的な清掃活動と清掃活動の徹底		
	12 読書活動の推進		
社会に開かれた学校	13 社会に開かれた教育課程	学校内だけでなく学校外でもあいさつができつつある。今後は「進んで」「元気に」を意識させたい。 コロナの制限も緩和され、保育園や小学校、支援学校等との交流ができるようになった。また、町内の史跡や販売店、公共施設、役所などへの見学も多く経験できた。 多良木町全体で取り組んでいる「ノーテレビ・ノーゲームデー」が形骸化し、実施できていない。町として見直しが必要である。	3.8
その他	14 学校改革の取組	勤務時間の進捗管理と指導助言はできた。	4.0
評価者の意見・感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 課題及び成果が明確に把握されている。課題については、改善のための早い対応を求めたい。</li> <li>■ 学校と保護者の間に見解の相違があると思われる記述があった。互いのコミュニケーション不足や保護者の学校に対する期待の大きさも起因すると思う。相互は互いに協力し合って児童の育成を図る必要がある。(意見交換を密に)</li> <li>■ 次なるステップに向けて地域の力を更に活用してほしい。保護者の一緒になって地域の宝である子どもたちを大いに磨きたい。あまり慌てず急がず、牛歩のようにゆっくり構えてもいいのではないかと。みんなで楽しくやってみよう。</li> <li>■ 授業のやり方は教師の努力が見られ活気ある授業で素晴らしかった。その一方で自学になると何をしたいのかわからなかったり同じ問題を繰り返し解いたりしたりと課題があるように思う。</li> <li>■ コロナ感染予防期間が長く社会や地域に学校を開くことはこれから再スタートだと思う。学校や教師、地域住民相互が力を合わせ負担にならないよう適切に関わっていければよいと思う。</li> <li>■ グランドや体育館横、プール東側は、晴れた日でも湿地状態になる。教育委員会に現場を見ていただきたい。梅雨季の廊下が水でかなり滑りやすく危険である。マットを敷くなどの環境整備ができないものか、懇願していただきたい。</li> <li>■ 多様性を認めた信頼関係の育成が学校教育を通してできてきていると感じた。保護者側もコロナ禍以前より積極的に関わりがもてるように今後考えていきたいと思う。</li> </ul>		